

三木 稔と結の会創立 20 周年記念

## シズカ楊静リサイタル

2008 年 6 月 7 日 14 : 00 開演

銀座王子ホール

主催：結の会

後援：シズカ楊静後援会

協賛：株式会社アルソア本社

協力：ジャパン・アーツ

入場料（全席指定）：5.000 円、学生席 2.000 円

**出演：**シズカ楊静（中国琵琶）

結アンサンブル

三木希生子(Violin)

橋本しのぶ(Cello)

臼杵美智代(Marimba-percussion)

宇佐美瑠璃（語り・Soprano）

結メール・クワイアー

三木 稔(指揮・トーク)

### 曲目と解説

#### ■三木 稔作曲／平安音楽絵巻

**演奏：**琵琶(Pipa)、ヴァイオリン、チェロ、マリンバ

**解説：**この曲は、セントルイス・オペラ劇場の委嘱で 1999 年 12 月に完成し、2000 年 6 月に同劇場によって世界初演（2001 年日本初演）された三木稔のオペラ第七作《源氏物語》のエレメントから再構成・再作曲された。3 時間のオペラから、琵琶とピアノトリオによる 20 分という、より小さく短い「ミニ源氏」で、平安時代の事象と心象を描いた次の六つの章が演奏される。CD：カメラータ・トウキョウ「三木稔作品選集 7」に収録。

オペラ導入部と六条御息所の生霊の音楽《闇と霊》、源氏と藤壺の《禁断の恋》、第二幕前奏曲から《時の巡り》、源氏と頭中将の《友と戯れる》、源氏が紫を想う《面影は唯一人》、そして明石の姫に出会う《琵琶間奏曲—海辺の歓び》。

今回は「源氏物語」の文章の引用などをする宇佐美瑠璃のナレーションが、各章に先立ってガイドする。

#### ■楊静作曲／「発承廻和」（日本初演）

演奏：琵琶（Pipa）ソロ

解説：作曲家としても中国琵琶史上稀な才能と言われ、20歳時の《九連玉》や《龜茲舞曲》など数々の最高賞受賞作品を作曲しているシズカ楊静が、「癸」「承」「廻」「和」という4つの形象を琵琶作品化し、自ら書いた書を前に演奏する日本初演。

### ■三木 稔作曲／琵琶秘曲《愛怨》

演奏：琵琶(Pipa)ソロ

解説：この曲は「三木稔、日本史オペラ8連作」を通貫させた新国立劇場委嘱《愛怨》(2005)の劇中曲。遣唐使大野浄人は、唐の光貴妃が秘曲とする琵琶曲《愛怨》を持ち帰る厳命を受けて唐に渡る。一方、数奇な運命で光貴妃の侍女となっている類まれな琵琶奏者の柳玲は日本にいる双子の妹・桜子の死を知る。桜子の愛人であった浄人の苦境を救うため、他に伝えたら死刑に処せられるという掟をわきまえつつ、自分しか弾けない《愛怨》を浄人に内密に演奏して聞かせる。それがオペラをカタルシスに導く。2006年、歌手の柳玲に代わって新国立劇場の舞台上で初演したシズカ楊静は稀有の賞賛を浴びた。【注】オペラ《愛怨》初演ライブをハイビジョンで収録したDVDが、5月17日、クリエイティブ・コア制作、日本コロムビアから発売。

休憩

### ■楊静作曲／Hidden Face of the Moon（世界初演）

演奏：琵琶と男声合唱

解説：ここ数年、ヨーロッパのジャズ奏者との即興演奏や本格的ビッグバンドとの演奏を活発に行っている楊静が、その手法にも熟達して、民族音楽的のみならずジャズ理論をも作曲に応用するケースも多くなった。Jean-Pierre Voiretのテキストによる男声合唱を伴うこの作品（現在4曲完成）にもその傾向が見られ、このコンサートで楊静のマルチタレントぶりが聴かれると思う。

1. Oriens Extremus
2. Middle Kingdom
3. Shanshui
4. Exotics
5. Libai

### ■三木稔作曲／東の弧 East Ark

演奏：琵琶(Pipa)、ヴァイオリン、チェロ、マリンバ+打楽器

解説：《東の弧》とは、日本列島を本州から沖縄を経て華南・雲南、そして中原の地華北に至る東アジアの弧を想定しての命名である。急な機会を得て、新しく活動を

始めた「楊静と結アンサンブル」のレパートリー策定のため、半ばは三木稔の最も適切な旧作からマテリアルを選び、2001年に自主的に作曲。上記のような独特な楽器編成の上、打楽器は小鼓と香川県産出の石サヌカイトを使う。

2002年4月20日、東京津田ホールにおける「楊静と結アンサンブル、三木稔作品特別演奏会」で初演、続いて5月、世界中から126団体が参加した第4回大阪国際室内楽フェスタで演奏して「特別賞」を受賞。

5つの楽章は、《水田幻想》約6分30秒、《琵琶夜曲》5分30秒、《渚の踊り》2分40秒、《艶歌》5分20秒、中国琵琶の著名な古曲「十面埋伏」をベースにした《古代の戦い》約8分、併せて約30分近くなる。

作曲者は、中国と日本の国交回復30周年を祝い、共通する文化を生命の弧のように撓らせ、古今の想い、海陸の情を作品に刻んだ。中華・東華（日本）のソリストたちが、この弧に沿ってユーモラスに、ポエティックに、またドラマティックに、作曲者が目指す『共楽』の時を創出してくれることを望んで書いた。CD：カメラータ・トウキョウ「三木稔作品選集7」に収録。

## 演奏者プロフィール

### ●シズカ楊静 Yang Jing

上海音楽学院にて琵琶及び作曲を専攻、中国圏の主なコンクールで、演奏と作曲の最高賞を含む多くの賞を獲得。スイスと北京を拠点に欧米・日本・アジア各地でリサイタルやオーケストラのソリストとして活躍中。演奏・作曲とも中国琵琶楽発展に最も貢献中のソリストであると本国で認知され、欧米では、世界全ての民族楽器の奏者として最もセンシブルな音楽家として迎えられ、批評で「ハイフェッツ並みの質」「その創造性で音楽の新時代到来を謳歌・賛美してみせる天才」「琵琶の妖精」「噂には聞いていたが、これほどの名技だったとは」「演奏姿も音楽も息を呑む美しさ。音一つ一つが完璧にはめ込まれた宝石のよう」などと称えられている。99年BBC PROMSの「ラストナイトコンサート」に民族楽器奏者として史上初めて登場、BBCウエールズ響と共演。マックス・ローチ、ピエール・ファールブルなど欧米ジャズ・ミュージシャンとの即興演奏やCDも多く、北京中央TVの常連。民族弦楽四重奏団『郷梅静月』の創立者。

作曲を三木稔に師事、《九連玉》《亀慈舞曲》の受章作品に《夢断敦煌》《Geyser》《お酒》など新鮮な作品を生みつつある。03年には上海で自作10曲の楽譜・CD・DVDが出版され、04年カメラータ・トウキョウから発売の「三木稔作品選集VII」では、《琵琶協奏曲》はじめ3曲全てのソロを演奏。日本でソロデビューは97年、99年にはサントリールホール都響定期で三木の《琵琶協奏曲》で聴衆と各批評の絶賛を受け、名フィル・大阪センチュリー響、03年中国フィルとの中国初演、05年ホノルル交響楽団などと同曲に

よる共演が続く。

00年、セントルイスオペラ劇場（01年日生劇場）の三木オペラ《源氏物語》、01年クルト・マズア指揮読売日響の三木《大地の記憶》世界初演に貢献。02年第4回大阪国際室内楽フェスタで同じく三木《東の弧》を演奏して「特別賞」を受賞。03年「アジア音楽祭」で芸大オケと莫凡《長恨歌》初演。06年新国立劇場の三木オペラ《愛怨》世界初演ではドラマの鍵をにぎる秘曲《愛怨》などの演奏で、全ての批評で歌手を超えんばかりの注目と賞賛を受ける。ソロ活動では洗練された自作・三木作品が毎年加わる。

現在スイスに住み、著名な楽団Chamber Soloists Luzerne、ロシアの室内オーケストラ「クレムリン」などの客員としての内外の公演、ピエール・ファールやスイスのジャズグループとの演奏ツアー、北京のスタジオを拠点にした本国での活動、日本国内で三木のトーク付きのリサイタル・ツアーや各地のガラ・コンサート、そして八ヶ岳「北杜国際音楽祭」「アジア アンサンブル」音楽監督・演奏、「結アンサンブル」とのツアーなど展開中。詳細は自身の英文の[URL:www.yangjingmusic.com](http://www.yangjingmusic.com)参照。[www.m-miki.com](http://www.m-miki.com)でも日本語で紹介がある。

### ● 結アンサンブル Yui Ensemble

1990年創立。主宰者三木稔の作品や音楽行動をアイデンティティとした、新たな音楽様式を生みだそうとするマルチ・カルチャー楽団。三木希生子をコンサートマスター、榊原徹を指揮者・音楽監督とし、三木作品に通暁した演奏者を器楽・声楽・国籍を問わず、目的に応じて登用しつつ、バリ島・香港公演、「よんでん派遣助成コンサート」など、内外の公演活動を毎年続けている。2002年第4回大阪国際音楽フェスタから出演を求められ、「楊静と結アンサンブル」が、世界から126の自由な様式のアンサンブルが競う中、三木新作《東の弧》を演奏して最高級の評価を得、アマチュア審査員からも選ばれて「特別賞」受賞。06年から三木が始めた八ヶ岳「北杜国際音楽祭」でも東西音楽交流に必須のアンサンブル。

### ● 宇佐美瑠璃

東京芸術大学卒業。同大学院及び文化庁オペラ研修所終了。イタリア留学中ベルリーニ国際音楽コンクール入賞、また「蝶々夫人」や「椿姫」「アイダ」「オテロ」等ヴェルディの主演を演ず。帰国後、三木稔のオペラ「ワカヒメ」「静と義経」「隅田川」「愛怨」「幸せのパゴダ」の初演や、日本オペレッタ協会の「こうもり」「メリー・ウイドウ」等で主演。「王様と私」、ミュージカル「源氏物語」等の舞台に多数出演。「第九」「レクイエム」「メサイア」ほか各種ミサ曲やコンサートのソリスト、ラジオ、TVでも活躍、コンクールの審査員も務める。94年リンカーンセンターでニューヨークデビュー。俳優、故宇佐美淳の長女。二期会会員、二期会オペラ研修所講師。

## ● 結メール・クワイアー

三木は、1960年代に東京リーダーターフェルに加わって歌い（現在名誉団員）、また彼らのために《レクイエム》《合唱による風土記 阿波》《喜怒哀楽》《合唱般若心経》など、日本の男声合唱界で古典のようになっている幾つもの男声合唱曲を作曲した。今回シズカ楊静後援会事務局長を務める奥田正道が、そのシニア段階のメンバーによるリーダーターフェル・ジルヴァーナーの仲間を中心に呼びかけて組織したのが「結メール・クワイアー」である。平均年齢が70才を超えるジルヴァーナーの中でも、現役時代以上にアトラクティブに歌い続けている高齢化社会の尖兵たちである。